県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

宮島学センター通信

第11号
令和2年3月15日発行

Prefectural University of Hiroshima Miyajimagaku Center

県立広島大学宮島学センター／
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号　TEL.082-251-9550　E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

学生による企画展示
「大鳥居のひみつ ―初代から八代目までの歩み―」を実施しました

宮島学センターでは、平成21年の開所以来、毎年夏期に広島キャンパス図書館で企画展示をおこなっています。11回目となった今年のテーマは「大鳥居のひみつ ―初代から八代目までの歩み―」（開催期間：令和元年８月19日～10月７日）で、384名の方にご来場いただきました。

今年度の展示も、国際文化学科の授業科目「博物館展示論」を履修している学生７名が企画しました。

学生たちは、昨年展示を担当した国際文化学科４年生の内田晴香さん、吉田美樹さんや大学院生の上田真凛さんの助言を受けながら、およそ４ヶ月かけて準備をしました。

工事中の大鳥居（夕景）
（令和元年10月撮影）

今年のテーマは、「大鳥居のひみつ」です。令和元年（2019）６月より、宮島のシンボルである厳島神社の大鳥居の大規模な修理工事が始まりました。

令和２年３月現在も工事が続いており、昭和25年（1950）の「昭和大修理」以来、およそ70年ぶりの大規模な修理となる予定です。

この機会に大鳥居に関連する文献調査を始めたところ、多くの「謎」に行き当たりました。

例えば、「どうして大鳥居は朱で塗られているのか」、「木材はどこから調達したか」、「額の文字は誰が書いたか」、「大鳥居がなかった時代があったのか」などです。

企画展示では、このように知っているようで知らない大鳥居の「ひみつ」を紹介しました。

なお、この展示は、宮島歴史民俗資料館で開催される「宮島の大鳥居～令和の保存修理～」（10月８日～12月８日）とのリレー企画でおこないました。

学生たちは令和元年５月19日に同館を訪れ、展示作品や展示方法について学んだほか、同館が所蔵する３点の作品の写真を展示しました。また、頼山陽史跡資料館からは、岡岷山「厳島図」や菅茶山「遊芸日記」の画像をお借りして展示しました。

さらに、宮島にお住まいの方より、昭和25年（1950）の「昭和大修理」の際に撮影された貴重な写真をお借りして展示しました。

学生によるギャラリートーク

展示の期間中、学生によるギャラリートークを２回実施しました。国際文化学科３年生の榎本愛加さんは、明治期に宮島を訪れた外国人観光客の日記や紀行を取り上げ、明治８年に再建された大鳥居（現在の大鳥居）の様子を紹介しました。

明治期に撮影された写真

イギリスの写真家ハーバート・G・ポンティングは、1902年～1905年に日本に滞在し、1906年にも日本を再訪しました。1910年にはロンドンで「In Lotus-Land Japan」を出版し、日本で撮影した写真を掲載しました。著書には、「（宮島で）一番有名なのは、楠の大木で作られた巨大な鳥居で、この聖なる島のいろいろな景色の中で、最大の特色をなしており、あらゆる形の日本芸術に取り入れられて不朽のものとなっている。それはどの場所から見てもほんとうに美しい」とあり、大鳥居を絶賛しています。

ギャラリートークでは、クイズ等も織り交ぜながら、キャプション（解説文）では紹介しきれなかった細部について、学生が詳しく解説しました。

オープンキャンパス

また、広島キャンパスで８月７日に開催したオープンキャンパスでは、企画展示に先んじて、一部の作品を展示公開し、国際文化学科３年生の上村友紀さんと佐藤帆夏さんが、訪れた高校生に展示解説をしました（写真左）。

宮島学センターの展示室では、昨年好評だった企画展示「宮島の町並み ―江戸時代の資料から読み解く―」と「宮島の切手と写真 ―昭和の記憶を辿る―」を再現したミニ展示をおこない、昨年展示を担当した国際文化学科４年生の吉田美樹さんと大学院生の上田真凛さんが解説をおこないました。（写真右）

宮島学センター開所10周年記念シンポジウム「宮島学が目指すもの ―文化財の保存と継承―」を実施しました

令和元年９月28日（土）、広島キャンパス大講義室において、宮島学センター開所10周年記念シンポジウム「宮島学が目指すもの ―文化財の保存と継承―」を実施しました。

シンポジウムの前半は、福井大学大学院工学研究科建築建設工学講座講師の山田岳晴さんをお招きして「海に立つ嚴島神社大鳥居の構成と維持」と題してご講演をいただきました。

後半は、嚴島神社禰宜の福田道憲さん、山田岳晴さん、秋山伸隆宮島学センター長によるパネルディスカッションをおこないました。司会は鈴木康之教授が務め、参加者からも多くの質問を受け付けました。嚴島神社の社殿をはじめとする宮島の文化財の保存と継承について意見を交わしました。

令和元年度「宮島学」

令和元年度の「宮島学」（国際文化学科二年次配当科目）は、日本史、日本文化史、日本文学、考古学、中国文学、比較文化などを専門とする教員が担当しました。国際文化学科２年生を中心に27名の学生が受講しました。

講　義		
4／16	「宮島学」とは何か	大知　徳子
4／23	嚴島神社の歴史	秋山　伸隆
4／24	現在の嚴島神社と宮島 ―学生の活動―	大知　徳子
5／7	嚴島神社の大鳥居	秋山　伸隆
5／14	平清盛の経済施策と嚴島神社	鈴木　康之
5／21	嚴島神社に伝わる舞楽	柳川　順子
5／28	嚴島神社の舞楽装束	鄭　銀志
6／4	宮島の町の形成	秋山　伸隆
6／11	管絃祭の今昔	大知　徳子
6／18	宮島を支えた広島城下の知識人 ―花見・石風呂・和歌・俳諧	西本　寮子
6／25	宮島と江戸文化 ―宮島参詣膝栗毛を中心に―	高松　亮太
7／2	嚴島神社と神仏分離	大知　徳子
7／9	戦争と宮島	秋山　伸隆

４月24日におこなった「現在の嚴島神社と宮島 ―学生の活動―」の授業では、宮島で活躍する学生たちによる活動報告をおこないました。

まず、大学院生の上田真凛さんと国際文化学科４年生の吉田美樹さんが、企画展示や嚴島神社でのアルバイトの経験について紹介しました。

続いて、宮島で人力車を引いた経験を持つ国際文化学科４年生の渡辺楓万さんが、外国人を含む観光客との関わりの中で学んだことを紹介しました。

最後に、国際文化学科３年生の尾本莉子さんが、宮島でおこなった英語ガイドや留学先でのプレゼン体験について紹介しました。受講した学生の感想の中には、「先輩の活躍を知り、宮島により興味が持てた」「授業で学んだ知識を地域で活用する方法について知ることができた」などがありました。

フィールドワーク	
6／1	舩附洋子さんと歩く宮島
6／1	福田道憲さんによる嚴島神社見学ツアー
6／1	「経塚」とは何か？
6／15	飯田勝彦さんと歩く宮島
7／19	管絃祭で提灯づくり

６月に実施したフィールドワークでは、宮島学センター学外協力員の舩附洋子さん、福田道憲さん、飯田勝彦さんにご案内いただき、学生に宮島の魅力を語っていただきました。

①舩附洋子さんと歩く宮島：6月1日午前

舩附洋子さんには、宮島桟橋周辺や港町の誓真釣井、町家通り、幸神社などを案内していただきました。江戸時代の面影を残す場所では、古写真を学生に見せ、現在の様子と比較しながらご案内いただきました。

宮島の恩人の一人である江戸時代の僧誓真が掘った井戸（誓真釣井）にも訪れました。

誓真釣井前での様子

②福田道憲さんによる嚴島神社見学ツアー：6月1日午後

午後からは、福田道憲さんに、嚴島神社の社殿を案内していただきました。

江戸時代の案内記である『厳島道芝記』や『芸州厳島図会』に紹介される名所のほか、神職の仕事や祭礼などについてもお話を聞くことができました。

熱心にメモを取る学生たち

③経塚とは何か？：6月1日午後

鈴木康之教授の指導のもと、嚴島神社の西側の丘（経尾）にある経塚を探訪しました。このフィールドワークには留学生が多く参加し、桟橋から嚴島神社までの道中は、宮島学センターが開発中の観光アプリの試行をおこないました。

④飯田勝彦さんと歩く宮島：6月30日午前

この日はあいにくの雨になりましたが、飯田勝彦さんに「厳島八景」をテーマにご案内いただきました。途中で林家住宅（上卿屋敷）を訪れ、出先洋一さんと泰子さんにご案内をいただきました。林家に伝来する調度品や文献資料について、特別に解説をしていただきました。

令和元年度「宮島観光学入門（英語）」

令和元年度「宮島観光学入門（英語）」（全学共通教育科目・一年次集中講義）を実施しました。この授業は、宮島を訪れる外国人観光客に対して、英語でガイド実践をおこなうことを目標としています。今年度は４名の学生が履修しました。加えて、単位にはならないものの、国際文化学科４年生１名と大学院生１名が聴講してガイドに参加しました。

また、昨年この授業を履修した国際文化学科２年生の堀尾珠里花さんと、宮島観光親善大使として活躍する国際文化学科３年生の森梨香子さんが、後輩をサポートしました。

初回の授業では、堀尾さんが、宮島に関するクイズをまじえながら、宮島観光の基礎知識やガイドの経験談を語りました。

第２回の授業では、馬本勉教授から、日本文化を英語で説明する方法についてグループワークやペアトークを楽しみながら学びました。また、森さんが、宮島親善大使としての経験談と、宮島観光の現況について紹介しました。

第３回の授業からは、講師のリチャード・ウェバー先生から宮島の歴史や文化、外国人観光客に対するガイドのノウハウについて学びました。

宮島でのガイド実践

11月24日、学生は２つのグループにわかれ、ガイド実践をおこないました。宮島の商店街の出口付近、石鳥居の前で待機し、訪れた外国人観光客に声をかけ、嚴島神社出口まで英語で案内しました。

嚴島神社高舞台前での様子

この日は、オーストラリア、ギリシャ、中国、ドイツ、フィリピン、フィンランド、レバノン等の観光客を案内しました。今年度はとくに、大鳥居の修理工事がおこなわれているため、大鳥居の写真やイラストを用意して、解説しました。

参加した学生の感想

・ガイドを通して、多くの外国人と話せるチャンスを得ることができました。英語の勉強にも、日本の歴史の勉強にもなりました。授業は終わってしまいましたが、自主的にガイドをやりたいと思います。

・広島でずっと暮らしていても宮島の歴史や建物について知らないことが多くあったので、宮島を知る良い機会になりました。

ガイドを終え、嚴島神社出口で記念撮影

令和元年度「宮島観光学（英語）」

「宮島観光学（英語）」は、国際文化学科の専門科目として三年次に開設した新しい科目です。初めての開講となった今年度は12名が受講しました。一、二年次で「宮島観光学入門（英語）」を受講した学生にとどまらず、宮島で、あるいは宮島の周辺でさまざまな活動をしている学生も複数いるなど受講の動機はさまざまでしたが、豊かな表現力を身につけたいという意欲に満ちた、個性豊かな学生たちが教室に集いました。留学を終えたばかりの学生、聴講希望の交換留学生も加わり、賑やかなスタートでした。

前半は基本的事項を紹介する表現とガイドの方法を学び、後半ではグループに分かれて、自分たちが独自に紹介したい観光スポットについて、来歴を調べたり、実際に宮島に足を運んだりと、アクティブに活動しました。２度のフィールドワークを予定していましたが、ガイド実践を予定していた２度目のフィールドワークは大雨のため断念せざるを得ませんでした。

しかしながら、１度目のフィールドワークは、鹿の突撃をかわしながら島内を歩いて初夏の宮島を満喫。初めて宮島を訪れる遠来の観光客や、生涯でたった一度の訪問になるかもしれない海外からの来島者の記憶に残る観光スポットは？ ガイドの目玉は？ 堅苦しくない自然な表現は？ と、それぞれに学びを深めました。

最後は、再び教室でバーチャルガイドを実践して終了。英語で作成したレポートは受講生の個性が発揮された力作が揃いました。

この科目は、共通教育「広島と世界」科目群の「宮島観光学入門（英語）」（選択科目）で世界中の人に知ってほしい宮島の魅力を英語でわかりやすく紹介することの楽しさと難しさを知った学生が、専門課程の「宮島学」（２年次後期）で宮島についての知識を広く深く、多角的に学んだ後に、それぞれの関心に応じて学びを深めていく際の選択肢のひとつとすることを狙って開設したものです。課題はありますが、段階的な学修の先にある実践的参加型・行動型学修を行う科目のひとつとして定着することを願っています。

まずは山の上から地形を確認

令和元年度公開講座・講演会

宮島学センター公開講演会

令和元年度は、広島市南区の公民館（３館）と共催してリレー形式で公開講演会を実施しました。

リレー講演会①「厳島合戦と仁保島」
日時：10月６日（日）10時～11時30分
講師：秋山伸隆
会場：広島市仁保公民館
受講者：48名

リレー講演会②「嚴島神社の大鳥居」
日時：11月24日（日）10時～11時30分
講師：秋山伸隆
会場：広島市宇品公民館
受講者：35名

リレー講演会③「管絃祭と広島城下町の人々」
日時：12月14日（土）13時30分～15時
講師：大知徳子
会場：広島市青崎公民館
受講者：19名

宮島学センター公開講座

廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催
第１回「明治時代の宮島」
日時：７月31日（水）14時～15時30分
講師：秋山伸隆・大知徳子
会場：はつかいち文化ホールウッドワンさくらぴあ
受講者：249名

第２回「考古学からみた中世瀬戸内海の流通」
日時：12月11日（水）14時～15時30分
講演：鈴木康之
会場：国民宿舎みやじま杜の宿
受講者数：78名

第３回「平家一門の厳島参詣と『安元御賀記』」
日時：令和２年２月12日（水）14時～15時30分
会場：国民宿舎みやじま杜の宿
講師：宮島学センター学外協力員　樹下文隆さん
（神戸女子大学文学部教授）
受講者数：74名

全国厳島神社参詣記⑪　高松　亮太

厳島神社／宗像神社

住所：京都市上京区京都御苑

京都駅から地下鉄烏丸線で四駅。丸太町駅から地上へ出てすぐのところに京都御苑はあります。かつて宮家や公家の邸宅が立ち並んでいた町は、明治の東京遷都に伴い、公園として整備され、現在では市民の憩いの場となっています。それでも私が訪れたこの日、寒風の候に暖かな陽光の降り注ぐ百敷は、往時の威容をいまだ湛えている風でもありました。

御苑の南端、幕末の政変を見守った堺町御門をくぐり左手に進むと、ほどなく勾玉の形をした拾翠池（九条池・勾玉池）が目に入ってきます。その池の中島に鎮座しているのが厳島神社です。平清盛は安芸国の厳島神社を崇敬する余り、摂津国菟原郡兵庫に築島（経が島）を造成するに際し、社殿を構えて厳島神社を勧請し、のちに母の祇園女御を合祀しました。築島の厳島神社は、後世、五摂家の一つである九条家邸内の拾翠池の島中に遷座され、同家の鎮守になったといいます。明治に入り、九条家の邸宅は東京へ移築されましたが、この厳島神社と池畔の茶室拾翠亭はここに残り、現在に至っています。主祭神はやはり市杵島姫命・田心姫命・湍津姫命の宗像三女神です。

厳島神社全景

鳥居

神社の裏手にある石橋を渡って境内に入ると、珍しい鳥居が目を引きます。この鳥居は花崗岩製の鳥居で、笠木と島木が湾曲した、いわゆる「唐破風鳥居」で、北野天満宮伴氏社の石造鳥居、木嶋坐天照御魂神社の三柱鳥居とともに、京都三珍鳥居と呼ばれているそうです。社伝によれば、清盛によって築島に建てられたもので、のち流転の憂き目に遭いながらも、明和八年（1711）に京の地で同社に復帰することになったといい、現在は国の重要美術品に指定されています。

社殿には神仏習合で市杵島姫命と同一視される弁財天の扁額が掛けられていたほか、社殿の裏に回ると、弁財天の使いの白蛇を描いた奉納絵や七福神の奉納絵などが掲げられていました。

弁財天の扁額

古くから商売繁盛・家業繁栄・家内安全の守護神として、京の人々から深く崇敬されてきた「池の弁天さん」。京都御苑内には同じく宗像三女神を祀る宗像神社もあります。京都にお立ち寄りの際には、どうぞ御参拝ください。　（高松亮太）

研究余禄⑪

厳島神社の舞楽装束

舞楽は５世紀から９世紀にかけて日本にもたらされた外来の舞を伴う音楽で、中国や朝鮮半島、ベトナムなどの音楽舞踊を源流にしたものです。平安時代に公家社会の間で用いられて次第に日本化していった舞楽は、11世紀の前半になると中国の唐楽を中心とした左方と朝鮮半島の高麗楽を中心とした右方が成立され、舞楽の装束も整備されていきます。

厳島神社の舞楽は平清盛の時代から始まりました。承安４年（1174）３月の後白河法皇・建春門院を福原に招いた上で随行した参詣や、平家一門の寄進になる承安３年（1173）銘の舞楽面などから厳島神社において舞楽が盛んに演じられたことが知られています。今日も厳島神社には二十数曲が伝承されており、2019年５月に行われた推古天皇祭

遥拝式では振鉾、万歳楽、延喜楽、蘭陵王（図１）、納曽利（図２）のような演目が披露されました。

左図１．蘭陵王（裲襠装束、左舞）
右図２．納曽利（裲襠装束、右舞）

舞楽装束は、蘭陵王のように赤と金色（金帯、金色の鉾）を主調とした左舞装束と、納曽利のように青（緑）と銀色（銀帯、銀色の鉾）を主調とした右舞装束に大別され、その中に襲装束、蛮絵装束、裲襠装束、別装束、童装束が含まれます。近年厳島神社で披露される演目の中には襲装束や裲襠装束を用いた舞が多いです。

厳島神社の舞楽装束は、中世のものはすでに失われており、伝存する舞楽装束では天正17年（1589）銘の童舞の納曾利の袍が最もさかのぼります。これは裲襠の下に着る袍で、右舞の色を表す青系の絹地で仕立てられています。しかし、現在、厳島神社の舞楽行事で見られる納曾利の装束に注目すると、図２のように裲襠と袴のみが青系の緑色で、袍は赤系の丹色を用いています。通常、舞楽装束は年間100回も使う消耗品であるため、近年見られる舞楽装束には刺繍や文様などが簡素化されていますが、服色においても同様の傾向が見られています。（鄭　銀志）

履修証明プログラムの実施

県立広島大学では、平成31年４月に学校教育法に基づく「履修証明プログラム」を開設しました。

このプログラムは、社会人等の学生以外の者を対象とし、体系的な知識・技術等の修得を目指した一定のまとまりのある教育プログラムで、その履修者には学校教育法第105条に基づく履修証明書を交付します。

宮島学センターでは、文化施設（博物館、図書館、資料館等）に勤務する方、文化行政に従事している方、また観光業に従事している方等を対象とした履修証明プログラム「宮島学で学び直す世界遺産厳島神社と宮島」（令和元年９月７日～令和２年８月31日）を開設し、２名の方が受講されました。

宮島学センターデジタルアーカイブサイトを開設しました

宮島学センターでは、宮島の歴史や文化に関わる古文書（中世～近世）、古典籍（近世）、絵図（近世～近代）、絵はがき（近代～現代）などを収集し、本学の研究・教育に活用しています。

令和元年４月、センターの開所10周年を記念して、「宮島学センターデジタルアーカイブサイト」を開設し、所蔵資料のうち約300点の高精細画像を公開しました。

例えば、絵図や錦絵等については、肉眼では確認しづらい細部まで、スムーズな操作で拡大してご覧いただくことができます。

また、古文書については、「翻刻」機能により、崩し字と活字を並べて表示させることができます。ぜひ一度ご覧ください。

宮島学センターデジタルアーカイブサイト
http://mjp.pu-hiroshima.ac.jp/mjarchive/

編集後記

宮島学センター通信第11号をお届けします。

宮島学センターでは、平成31年4月に開所10周年を迎えました。この10年、地域の皆様に様々なご支援をいただきました。深く感謝申し上げます。

令和2年度からは、宮島学の発展を目指し、新たな企画を打ち出していきます。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。（0）

編集・発行

宮島学センター通信　第11号
令和2年3月15日発行

県立広島大学宮島学センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
TEL.082-251-9550
E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp
ホームページ:
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/miyajima/